

水族館「うみたまご」 2期新施設増設計画 株式会社マリンパレス



動物や現代アートと遊ぶ『あそびーち』



飼育動物を守るための濾過循環設備



動物たちと直接ふれあえる画期的な施設



公募で選ばれた3つの現代アート遊具

01 企業情報 profile

会社名 株式会社マリンパレス
代表者 代表取締役 橋本 均
所在地 〒870-0802 大分県大分市大字神崎字ウト3078番地の22
TEL.097-534-1010 FAX.097-534-1013
URL <https://www.umitamago.jp/>
E-Mail m-otsuru@umitamago.jp (担当 大鶴 正之)
事業内容 水族館
資本金 2億7,000万円
設立 昭和39年3月16日
社員数 70名

02 概要 outline

水族館「うみたまご」は10周年を迎え新施設の増設に着手し、現状の入館者数より10万人の増加を見込む。新施設のコンセプトは「動物たちと遊ぶ」「現代アートで遊ぶ」水族館。本事業のため濾過循環設備、水温調節設備、現代アート遊具を導入する。

03 背景・経緯 background

マリンパレスが果たし続ける「地域貢献」機能

昭和39年にオープンした『大分生態水族館マリンパレス』。観光資源の乏しかった当時の大分市に、国道10号線を挟んだ向かい側の高崎山自然動物園とともに県内外の観光客が押しかけた。

その後、老朽化と国道拡幅工事に伴い平成16年4月に『うみたまご』の愛称でリニューアルオープン。その評判も瞬く間に広がり、全国的に水族館ブームが訪れたなかであっても、『うみたまご』は常に上位を争うほどの人気水族館として親しまれるようになった。一般的に水族館には、「教育」「研究」「自然保護」「地域貢献」といった4つの公的機能を果たすための存在意義があるとされている。開業当初から観光資源として集客効果・経済効果が期待されていたマリンパレスは、通算50年以上を経過しても「地域貢献」機能を果たしており、地域水族館では突出した存在だと言える。

平成26年でリニューアル10年を迎えた『うみたまご』は、激化する水族館競争に対処すべく二期計画として新しい展示場を設置することを決定した。その前年の年間来館者数は約70万5千人ではあるが、やや減少傾向を示しはじめており、新施設リニューアルにより10万人の増加ができるよう見込んでいた。ものづくり補助金は、その一部設備導入に充当するよう計画された。

04 事業内容 details

世界にも類を見ない新しい水族館コンセプト

新施設のコンセプトは「動物たちと遊ぶ」「現代アートで遊ぶ」水族館。キーワードは「あそび」と「ビーチ」を組み合わせた『あそびーち』とした。

別府湾に面した約2,500㎡の敷地に4つのプールを配置し、「海の生きものをイメージしたあそべるアート」をテーマにして全国公募により決定した3つの現代アート遊具が設置されている。

なかでも注目が、最も大きいプールの人工砂浜である。ここではイルカやアザラシなどの息吹を目前で体感できる体験型の施設としている。動物と人間との間を遮る柵やガラスがないため、イルカなどの動物を身近に感じられるのが大きな魅力となっている。まさに世界にも類を見ないであろう、新しいコ

ンセプトの施設といえよう。

この『あそびーち』の4つの展示水槽には、別府湾の海水約1,100tを使用するのだが、自然の海水の中には飼育生物にとってマイナス要因となる浮遊生物が含まれている恐れがある。そこで飼育展示における対策のため、海水の汚濁防止や除菌能力を有する濾過循環設備と水温調節設備を導入し、本件の補助金を活用することにした。

05 成果 achievement

目標を遥かに上回る集客実績で 大分観光のリーダー的存在へ

平成27年初夏、いよいよオープンした『あそびーち』。この年は東九州自動車道が全線開通し、大分県立美術館、大分駅ビル、JRの大分県デステネーションキャンペーンとも重なった。

そのなかであって『うみたまご』は大分県が実施した「ゴールデンウィーク観光動向調査」で、県内観光施設入場者数第1位の約6万2千人を集客。さらに年間入場者数は約85万人にまで伸ばしており、目標の10万人増を遥かに超える実績を残している。

増加要因の目玉施設が『あそびーち』だったのは、もちろんである。

06 展望 future

施設の魅力を支える スタッフのおもてなしマインド

リニューアル翌年の平成28年4月、ゴールデンウィークを前にして熊本地震が発生。連休の入場者数は5割減となった。それでも次第に客足も戻りはじめ、夏休みには再び賑わいを取り戻した。

『うみたまご』のもうひとつの強みは、スタッフのおもてなし姿勢が高評価を得ていること。

“ハード”と“ハート”の両輪が、「地域貢献」機能を果たし続ける原動力となっているのだ。

まとめ point

全国的な水族館ブームが続くなか、
新コンセプトの施設オープンで、
一歩リードした存在へ。